

**Citation:** Duley L, Gülmezoglu AM, Chou D. Magnesium sulphate versus lytic cocktail for eclampsia. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2010, Issue 9. Art. No.: CD002960. DOI: 10.1002/14651858.CD002960.pub2.

**CRG名:** Cochrane Pregnancy and Childbirth Group

### [最新版\(英語版\)はこちら](#)

**英語版最終改訂年月:** 27 July 2010

**Clib issue No.:** N/U: 2010 issue 9, Update

**背景:** 子癇(子癇前症に関連した発作の発生)は稀であるが、重篤な妊娠合併症である。多数の様々な抗痙攣薬が子癇発作をコントロールし、更なる発作を予防するために用いられている。

**目的:** 本レビューの目的は、子癇のある女性のケアに用いられる場合の硫酸マグネシウムの効果を、溶解カクテル(通常、クロルプロマジン、プロメタジン、ペチジン)と比較・評価することであった。他のコクラン・レビューでは硫酸マグネシウムはジアゼパムやフェニトインと比較されている。

**検索戦略:** Cochrane Pregnancy and Childbirth Group's Trials Register(2010年7月)とCochrane Central Register of Trials(コクラン・ライブラリ2010年第2号)を検索した。

**選択基準:** 子癇の臨床的診断を有する女性を対象として、硫酸マグネシウム(静脈内投与または筋肉内投与)と溶解カクテルを比較しているランダム化試験。

**データ収集と分析:** 2名のレビューア(L DuleyとD Chou)が試験の質を評価し、データを抽出した。

**主な結果:** 本レビューには平均的な質の3件の小規模試験(合計397例の女性)を選択した。硫酸マグネシウムで溶解カクテルよりも、母体の死亡が少なく(リスク比(RR)0.14、95%信頼区間(CI)0.03~0.59; 3件の試験、397例の女性)、更なる発作を予防するのに優れていた(RR 0.06、95%CI 0.03~0.12; 3件の試験、397例の女性)。また、硫酸マグネシウムで呼吸抑制(RR 0.12、95%CI 0.02~0.91; 2件の試験、198例の女性)、昏睡(RR 0.04、95%CI 0.00~0.74; 1件の試験、108例の女性)、肺炎(RR 0.20、95%CI 0.06~0.67; 2件の試験、307例の女性)がより少なかった。胎児死亡に対するRRに明白な差はなかった(RR 0.35、95%CI 0.05~2.38、ランダム効果; 2件の試験、177例の乳児)。

**レビューアの結論:** 溶解カクテルと比較して、子癇のある女性に対して硫酸マグネシウムは母体死亡、更なる発作および重篤な母体罹病(呼吸抑制、昏睡、肺炎)のRRを低下させた。硫酸マグネシウムは子癇のある女性に対する選択の抗痙攣薬である; 溶解カクテルの使用はやめるべきである。

(監訳 江藤宏美)

翻訳公開日: 2011年3月25日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がありましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。